

平成25年度宮崎県青少年問題協議会議事録

1 開催日時

平成26年2月18日(火) 13:30～15:00

2 開催場所

県庁附属棟2階201号室

3 出席者

河野俊嗣会長(知事)、谷口由美繪副会長、有嶋誠委員、緒方東五委員、黒木清委員、後藤幾子委員、西山昌彦委員、藤川浩委員、矢方幸委員、力武嘉壽子委員

(欠席)川越美佐樹委員、外山與子委員

4 次第

(1)開会及び定足数確認

(2)会長(知事)あいさつ

(3)委員紹介

(4)議事

<テーマ>青少年のインターネット利用環境をめぐる問題について

ア 資料説明

イ 意見交換

(5)その他報告

宮崎県青少年健全育成審議会との統合について

(6)閉会

5 意見交換の概要

インターネットに関する保護者向けの啓発が不足している。様々な会合に参加する保護者には情報が入るが、本当に啓発を必要とする保護者は、会合に参加しないので、いくら会合を開催しても情報が入らないのが現状である。

最近の子どもたちのコミュニケーション能力の低下、コミュニケーションの苦手な保護者の増加という状況は、ネットメディアに依存した生活が作っている。

学校では、昔は、買わせない・持ち込ませないと制限していたが、ほとんどの子どもが携帯電話を持っているという認識で青少年のインターネットに関する問題を考えないといけない。

学校でも早いうちからインターネットの有害な部分、影の部分をしっかり子どもたちに教えていかなければならないし、保護者にも様々な場面で話をする機会を作るべきである。

スマートフォンを持つ子どもが急激に増加している影響か、昨年の夏からスマートフォン、特に「LINE」のトラブルに関する相談が非常に多い。以前は学校裏サイトでいじめをしていたが、現在は「LINE」を通して、グループを作り、なかなかグループを抜け出せない、グループ内でいじめがあるという相談を受けている。

インターネットが全て犯罪・問題につながっているかと言えば、そこには子どもの使う意識や親の意識の問題があるのではないか

保護者が「うちの子にかぎって」というのでは遅い。子どもたちはいろいろな情報を分かっている。今朝の出来事は、昼にはもう伝わっている事例もある。親がもっと理解する場が必要。

啓発も大事だが、「LINE」に代表される閉ざされた空間での友達とのつき合い方、コミュニケーションの取り方、今の若い世代のそういう部分が根本的に変革しているのではないか。もっとリアルな交際の大切さを親の世代が教えていくこともネットと付き合っていく上で大切。

出会い系サイトは、被害者はもちろんのこと、これを利用して加害者になって非行を犯す事件が起きている。

犯罪手段や方法がインターネットで簡単に手に入り、学んでいるし、SNSで自分のサイトを持つと、自己万能感というか、もっと目立ちたい気持ちが強くなってきて、サイトにアップしたいがために犯罪を犯す事例もある。

インターネットにより、子どもたちが非常に広い世界に接していける。子どもたちの中には外国の人たちとコミュニケーションを交わしたり、世界中で起きている様々なことをリアルタイムで入手したり、地域の文化・外国の文化に直接触れることができるなどすごい経験ができる。

インターネットは絶対になくなることはないので、あることを前提に、対処できるところから早期に始めることが重要。子どもたちは、日々成長しており、大人の処方が遅れた分だけ被害が大きくなる。

乳幼児期からこどもがメディア漬けになっているということを、親に気づきを起こさねばならない。その子どもたちが小中学生になったときに問題がさらに深刻になってきている。